

◇今回の「とびら」は、北海道支部長の坂入正敏先生にご執筆いただきました。新型コロナウイルス感染症の拡大により北海道教育大学での現地開催が実現できなかった2020年第80回分析化学討論会からすでに5年が経ちました。“コロナ禍は遠い過去のもの”と感じるようになった方も多いのではないでしょうか。今年は秋の札幌で、研究と食について活発な議論を交わしましょう。

◇入門講座では、ガスクロマトグラフィー（GC）におけるゴーストピーク対策についてご寄稿いただきました。GCの装置構成や基本原理から、ゴーストピークの原因とその対策に至るまで、非常に詳しく解説されています。特に、ゴーストピークの原因を特定するためのワークフローは大いに役立つそうで、大変参考になります。

◇昨年2月、筆者が住むさいたま市では大雪が降り、自宅の庭のミモザの木がポキッと折れてしまいました。2024～2025年の冬は厳しい寒さが予想されていますが、この記事を書いている2月中旬まではさいたま市では雪は降っていません。昨年折れたミモザは、その後元気に成長し、今年はたくさんの花芽をつけて春の訪れを楽しみにさせてくれています。

[H.Y.]

〈とびら〉

AI技術とソリューションサービスで進化するラボ分析  
..... 駒谷 慎太郎

〈入門講座〉 分析におけるコンタミ・キャリアオーバー対策

ICP-MS分析における  
コンタミネーション・メモリー効果対策  
..... 中野 かずみ, 朱 彦北, 鹿籠 康行

〈講義〉

日本薬局方における容量分析法による医薬品の  
定量及び水分測定法について..... 稲垣 真輔

〈ミニファイル〉 分析用試薬

深共晶溶媒..... 城田 秀明

〈話題〉

単一細胞分析に基づくモノクローナル抗体取得の効率化  
..... 鈴木 雅登

◇ 編 集 委 員 ◇

〈委員長〉 四宮 一 総 (日 本 大 学)		
〈副委員長〉 市場 有 子 (ライオン(株))		
〈理 事〉 津越 敬 寿 (産業技術総合研究所)		
〈幹 事〉 稲川 有 徳 (宇都宮大院地域創生科学)	糟 野 潤 (龍谷大先端理工)	久保田 哲央 (アジレント・テクノロジー) <small>(インターネット・ナショナル編)</small>
	橋本 剛 (上智大理工)	
〈委 員〉 石橋 千 英 (愛媛大院理工)	上田 忠 治 (高知大農林海洋科学)	岡崎 琢 也 (東京都立大都市環境科学)
	岡林 識 起 (日大生物資源科学)	勝又 英之 (三重大院工)
	古賀 舞 都 (農研機構)	坂 真 智子 (株エスコ)
	東海林 敦 (東京薬科大薬)	末吉 健志 (北里大理)
	高橋 豊 (EMLソリューションズ)	谷合 哲行 (千葉工業大先進工)
	原田 誠 (東京科学大理)	半田友衣子 (埼玉大工)
	三原 義 広 (北海道科学大薬)	盛田 伸一 (東北大院理)
	山崎 由 貴 (国立医薬品食品衛生研)	北 牧 祐 子 (産業技術総合研究所)
		島田 健吾 (石福金属興業(株))
		高橋 幸奈 (九州大カーボン・ニュートン) <small>(九州エネルギー国産研)</small>
		原賀 智子 (日本原子力研究開発機構)
		福島 健 (東邦大薬)
		山口 浩輝 (味の素(株))

☐ 複写される方へ

日本分析化学会は学術著作権協会（学著協）に複写に関する権利委託をしていますので、本誌に掲載された著作物を複写する場合は、学著協より許諾を受けて複写してください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル3階  
一般社団法人 学術著作権協会

FAX：03-3475-5619 E-mail：info@jaacc.jp

なお、複写以外の許諾（著作物の転載願い等）は、学著協では扱っていませんので、直接日本分析化学会へお尋ねください。

ぶんせき 2025年 第3号 (通巻603)

2025年3月1日印刷

2025年3月5日発行

定価1,000円

編集兼発行人 公益社団法人 日本分析化学会

印刷所 〒173-0025 東京都板橋区熊野町13-11

株式会社 双文社印刷

発行所 〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2

五反田サンハイツ304号

公益社団法人 日本分析化学会

電話 総務・会員・会計： 03-3490-3351

編集： 03-3490-3537

FAX：03-3490-3572 振替口座：00110-8-180512

© 2025, The Japan Society for Analytical Chemistry

購読料は会費に含まれています。